

そうじやの光



前橋市立
総社小学校
学校だより 10
令和元年 12月 23日

学校教育 具体目標 かしこく 心ゆたかで たくましい子

2学期終業式…「挑戦」と「やりがい」のあった学期

本日で終業式を迎え、79日間の2学期も無事終了しました。2学期は運動会を始めとして、様々な校内行事があったことに加え、今年は市民運動会、秋元公歴史まつりなどの地域行事への参加も多く、例年にも増して盛りだくさんの学期だったと思います。

日々忙しい中でも、全員が、その1つ1つに真剣に向き合い、自らの挑戦や集団としての挑戦を試みながら、確かな成長を感じさせてくれました。

特に、5・6年生は、高学年としての自覚と責任を持ち、総社小のリーダーとしてがんばってくれました。

2学期は、子どもたちにとっても挑戦とやりがいのあった、力のついた学期だったと思います。



6年生と1年生の交流から

学習参観、懇談会では大変お世話になりました。

11月28日、29日に行われた学習参観・懇談会では大変お世話になりました。お忙しい中、多くの保護者に出席していただき、子どもたちもとても嬉しそうでした。落ち着いた授業や学習発表の様子から、普段からの取組の様子が想像できたのではないのでしょうか。懇談会では、来年度PTA役員についての話し合いも行われたようです。いつもあたたかいご支援、ご協力に感謝しております。



「本物」を目の前で鑑賞！開校記念行事～藤原歌劇団公演！

12月3日に開校記念行事として藤原歌劇団のオペラ公演を行いました。この公演は、子どもたちに芸術の素晴らしさを伝えようという文化庁の巡回公演事業として、県内で4校選出され実施されるものです。また、鑑賞だけでなく「体験」することを重視し、9月には6年生対象に歌や踊りのワークショップを行い、当日もプロの俳優と共演するというプログラムになっています。

本公演では、全校で「本物」のオペラを目の前で鑑賞し、低学年の児童からは、絶えず歓声があがっていました。6年生も生き生きと演技に、歌に、ダンスに取り組んでいました。開校記念行事にふさわしく、文化としてのオペラの伝統も味わいながら、とても楽しく有意義な時間を過ごしました。



リハーサルの様子



宇宙人があらわれた！



藤原歌劇団と6年生

人権の大切さを学ぶ～様々な取組から！

(保健委員会の取組)

11月19日の児童集会では、12月1日の世界エイズデーに関連して、保健委員から「エイズや人権について」の発表と、手作りの「レッドリボン」の配布がありました。レッドリボンは、差別や偏見をなくす気持ちを表すシンボルです。人権週間にかかわらず、普段から人権尊重の意識を持って生活することが大切であることを全校に呼びかけてくれました。

(各クラスの取組の発表)

12月12日に、各クラスの「いじめ防止スローガン」の「振り返り」について発表がありました。今回は、インフルエンザの感染防止のため、ビデオ放送で行いました。

各クラスが、自分たちで立てた目標について、ふりかえりを行い、よくできたことや今後の取組について発表しました。

全体的に多かった課題は「言葉の使い方」です。今後も「言葉」の大切さを学校でも継続的に伝えていきます。

また「人権標語」のクラス代表者の発表がありました。校内に掲示しますので、機会がありましたら是非ご覧ください。



インフルエンザの流行！

今年の総社小はインフルエンザの流行が早く、今までに4クラスが軽減や学級閉鎖の措置を行いました。予定されていた行事や集会(読み聞かせ、学校保健委員会、六中ワイド相談、人権集会)などを急遽中止とさせていただきました。関係者、保護者の皆様には大変ご迷惑をおかけしたと思います。インフルエンザは抗体の型によっては、数回かかることもあると言われています。冬休み中もなるべく人混みを避けたり、手洗い、うがいの徹底をしたりして元気に過ごしてほしいと願っています。

3年生で万引き防止教室を開催！

12月13日に3年生で「万引き防止教室」が行われました。毎年前橋市学校安全アドバイザーの方を講師に、3年生対象に行われていますが、今回も「もし友達から万引きにさそわれたら」などの場面をロールプレイで再現し、子どもたちに考えさせていました。友達と意見交換しながら、「実際にどうしたらよいか」具体的に学ぶことはとても大切です。

休み中は特に子ども同士で行動する機会も増えると思います。この学習を生かして、正しい判断力と行動力をさらに磨いていってほしいと思います。



〈 校長のつぶやき 〉 ～「先生！みてたん！」～

学期末は、全校分の通知表所見に目を通します。担任の先生は、毎日児童と接しながら実に多くのことを「見ている」(感じている)と感心させられます。当たり前のようにですが教師にとって一番大切なのは、「子どもを見る(感じる)目」だと思います。

自分の数年前のある経験を思い出しました。担任していたKさんは、おとなしく目立ちませんが優しくがんばりやでした。落ちていた友達の体育着の袋を拾ってかけ直したこと、一杯になりそうな鉛筆削りのカスをきれいにしてくれたこと、黙って廊下に落ちた牛乳のしみを拭いてくれたこと、忙しい母の代わりに弟の音読を聞いていることなど、どんな小さなことでも賞賛し、感謝を伝えました。口数が少ないKさんでしたが、その時は必ず「先生！みてたん(みていたの)！」と嬉しそうな笑顔がはじけました。

人と人がつながるための基本は、まず「他者への気付き」から始まるのではないのでしょうか。そのためには、大人も子どもも、常に柔らかく豊かな心の余裕をもってほしいものです。

今年の春、Kさんからの手紙が届きました。大学に無事入学し養護教諭を目指しているという報告とあの笑顔満面の入学式の写真。そして、「先生、誕生日おめでとございます！いつまでもお元気で。」の言葉。今でもかつての担任の誕生日を祝ってくれるKさんらしい心遣いに胸が熱くなりました。

* このコーナーは、校長の考えを思いつくまま連載します。皆様のご意見、ご感想をお待ちしています。